

計量史をさぐる会の予稿原稿の執筆要項

日本計量史学会

原稿作成に当たっての一般的な原則を列記したものであり、次の要領に準じて原稿を作成するための指針とする。

1. 原稿作成

1.1 原稿

原則としてA4用紙縦置きで、横書きとし、2段組6ページ以上10ページ以内で作成する。原稿はワープロ又はパソコン等を使用して黒色で印刷されたものを提出する。

その他の形式で提出される場合は、事務局にご相談ください。

1.2 目次の取り方

章・節・項……以下の番号は、上位表題より次のとおり順次決定する。

(例) 第3章の場合

3

3.1

3.1.1

(1)、(2)、(3) ……

(a)、(b)、(c)……

()、()、()、()……

1.3 書式スタイル

1.3.1 ページマージンについては、A4縦、半角76文字/行、45行/ページ、2段組とし、上端/下端マージンは共に22mm、左端/右端マージン共22 mm、中央マージン7 mmとする。

1.3.2 表題のフォントは、ゴシックで18Pを用い、2行以内とし、中央に揃える。所属と著者名は、ゴシックで14Pを用いる。連名者の所属が異なるときは、*、**、***等の識別記号を用いて明示し、右端に揃える。

1.3.3 本文は、「である」調とし、段落の文頭は1字下げ、フォントは10.5P又は11Pとする。

1.3.4 章・節の番号・ローマ字・()・[]は、半角とする。

1.3.5 文章中の句読点は、全角「、。」を用いる。

1.4 文献

1.4.1 文献番号の取り方

通し番号とし、文中では右肩に¹⁾のように示す。

1.4.2 文献の書き方は、次の例にならって記載する。

(1) 雑誌など：

文献番号) 著者：表題、誌名 巻-号(西暦年) 初頁/終頁の順に記入する。例えば、

1) 桜村太郎：国際実用温度目盛りの改訂、応用物理 70-9、(2000) 1353/1362.

2) J.A. Goff and S. Gratch: Low-Pressure Properties of Water from -160 to 212F, Trans. Amer. Soc. Heat. and Vent. Eng. 52、(1946) 95/122.

(2) 書籍

文献番号) 著・編・訳者：書名、(発行所、発行地、西暦年) 初頁/終頁の順に記入する。例えば、

1) 日本機械学会編：湿度・水分計測と環境のモニタ、(報堂出版、1992) 43/51.

2) T.S.Moss: Optical Properties of Semiconductor (Butterworth Scientific Pu-b., London、1959) 2nd ed., 73.

1.5 表について

1.5.1 表番号の取り方

通し番号とし、文中は表1、表2、表3・・・とする。引用するときは、表1、表2...のようにする。

1.5.2 表の説明

表の番号及び表題は、表の上に付ける。表の説明文を付ける場合は、各表の下に入れる。

1.5.3 表の形態

(1) 数行程度の小さな表で、本文の記述の近くに入れる場合は、本文と一括処理する。表の番号を他所から引用する必要がない場合は、付けなくてもよい。

(2) ワードプロで作成するときは、上記「表の説明」に従う。

(3) 他の文献などからのコピーをそのまま引用する場合は、本文中にスペースを作り、鮮明なコピーを張り付けて完成させる。併せて、上記の「表の説明」に従う。

1.6 図

1.6.1 図番号の取り方

通し番号とし、文中は図1、図2・・・とする。

1.6.2 図の説明

図の番号、表題及び説明文は、図の下に付ける。

1.6.3 図の形態

次の3通りとし、(3)の場合を除き原則とし節又は項の最後にまとめる。

(1) 数行程度の小さな図で、本文の記述の近くに入れる場合は、本文と一括処理する。図の番号を他所から引用する必要がない場合は、付けなくてもよい。

(2) ワードプロで作成するときは、上記「図の説明」に従う。

(3) 他の文献などからのコピーをそのまま引用する場合は、本文中にスペースを作り、鮮明なコピーを張り付けて完成させる。併せて、上記の「表の説明」に従う。

1.7 式の番号

通し番号とし、式は行の右端に(1)、(2)・・・と記入する。

文中は式(1)、式(2)・・・とする。

以上